

町政を問う

一般質問とは

議員が町政全般にわたり、執行機関（町長・教育長など）に疑問点について、所見を伺うことです。



大谷 敏弥 議員

津波避難訓練は 5



辻 紀樹 議員

水道管の漏水について 6～7

津波避難訓練は

(町長) 地域の実情に合わせた津波避難訓練の実施を計画していく

大谷 能登半島地震の

石川県珠洲市下出区では、高齢者は若者が背負うなどし、全員が高台の集合場所に避難、死者はゼロだった。津波は天井付近まで浸水したものの、日頃「避難訓練」を続けてきてよかったと。

また、全員無事だったのは偶然ではないと語っていた。何かあったら高台の集合場所を合い言葉に、毎年秋、集会場までの避難訓練を重ねてきたと。また、訓練と平行し道路の避難整備や避難場所の道のりなど、住民の危機意識が次第に高まってきたと。長万部町も避難訓練を毎年実施し、町民に強く長い揺れがあれば、とにかく早く高い所に逃げる意識を浸透させる取り組みをしては。

町長 津波避難訓練については、私が町長に就任した翌年の平成28年10月に、全町一斉避難訓練

を実施し、子どもから高齢者まで約1100人の住民が、指定された避難所に避難した。

こうした経験や訓練結果をもとに、今後の防災教育の実施内容などを検討し、翌年から町内会等を単位とした防災出前講座を行っている。新型コロナウイルス感染症の影響により開催できない時期もあったが、昨年は、婦人赤十字奉仕団や町内会など5団体で「長万部町水災害避難啓発動画」を活用した防災出前講座を行うことができ、このうち温泉町内会では避難訓練を行っている。

本町では、海沿いに住む方、山あいに住む方など、地理的条件や町内会等によって異なるため、地域の実情に合わせた訓練や教育が必要であることから、具体的な避難方法などを住民と一緒に考えていく防災教育の推進

に努めている。今後は、令和6年能登半島地震の教訓をもとに、避難訓練の重要性をこれまで以上に住民に伝えるとともに、津波避難訓練の実施を計画したい。

大谷 地域ごとに分け、

避難訓練を行なっては。また、日をおいて次の地域といった訓練を考えるとどうか。避難訓練をすることで色々な課題や問題点も見えてくるし、いつ発生するかわからない地震にもすぐに対処できるという利点もあると思う。町民の命を守ることを最優先に考えるという意味でも、毎年の避難訓練を実施することは大事なことです。また、一度の避難訓練では参加できない人や、忘れてしまう人も出てくると思うので、

大変だとは思いますが、できれば年に2回ほどの避難訓練の実施を考えては。

町長 長万部の場合は山崩れ、土砂災害区域もある。それから大雨被害、水害、様々な被害が想定されている。その地域に住む方を守るための避難訓練も考えなければいけない。どこへ避難するのか、きちんと方向性を見いだして教育・訓練をしていく。



避難所となっている「ふれあい会館」

辻 紀樹 議員

水道管の漏水について

(町長) 水道・下水道使用料を減免する

辻 2月29日開催の全員協議会の冒頭、町長より2月26日に陣屋町旧佐々木配管付近の埋設水道管より漏水事故が発生、復旧に向けての取り組みについて口頭により説明された。

その内容は、防災無線による漏水事故の対策啓発、復旧作業の進捗状況、濁り水などの影響を受ける需要家に対し水道料金の減免対策など。また、29日現在では破損箇所部品が届かず完全復旧には数日を要するとの説明を受けている。

説明を受けてから数日が経過しており、現在完全復旧はされたのか伺う。

町長 質問のとおり2月26日午前9時頃、字長万部220番地1の「長万部道路踏切」付近で水道管の漏水事故が発生した。

町の対応としては、まず踏切付近でもあり安全確保のため、防災ラジオで対象地区へ水道濁水注意喚起を行い、漏水箇所を断水して需要家に影響がないように配水系統を切り替えて掘削工事に入った。しかし、地下埋設通信ケーブル管が障害となったことで別修繕部材が必要となり、やむを得ず修繕工事を延期した。この状態が長引いたことから水流圧力の変動等により濁水が見られたため、再度防災ラジオで濁水の注意を対象区域にうながし、夜間まで濁水改善対応を行ったところ、2月28日には水質がほぼ通常どおりに戻っている。住民の皆様には、ご心配とご迷惑をおかけしたことを改めて深くお詫びする。

なお、延期していた修繕工事については、濁水等には十分配慮した上で3月5日から再開しており、3月18日頃までに配水系統も従来どおりに切り替えて完了する予定である。

また、静狩・双葉地区を除く長万部地区から国縫地区までの上水道の需

要家に対しては、3月分検針で上・下水道料金の超過料金を減額し、基本料金のみとさせていた。いただきたいと考えているので、ご理解よろしくお願い申し上げます。

辻 18日までに、従来の排水系統に切り替えるとの答弁だが、工事の日時や、水量、多量に水を必要とする商店・事業所への啓発はどのように考えているのか。

町長 もうパイプ自体は接続が終わっているが、アスファルトを敷いて全部終わるのが18日である。水量を切り替える時期には、事業所などの方に連絡を入れて、夜間の工事にし、できるだけ漏水や濁水のないよう処理していきたい。



辻 それが一番妥当だとは思う。このような事故が発生するということはありません。今回の漏水の対応について、マニュアルや、作業手順は作っているのか。

町長 マニュアルは従前どおりから作っている。項目は10項目からなるマニュアルを作ったものは原課にある。

辻 水道料金の減免については理解できるが、下水道料金の減免は今まではなかったような気がするが、南西沖地震の時には被害が多くなったため、そういう処置はされた記憶はある。今回は給水支管と言う、太いパイプの漏水ということで被害がどの程度か、わからないことを考えて下水道の料金についても、減免という措置を取ったのか。

町長 26日の漏水発生から、全体的にきれいに



漏水事故が発生した長万部道路踏切付近

なるまで28日までかかっている。遠い所は多少の濁水が出て、28日ということになったが、どの範囲まで濁水が流れたのかということについては、

推定も想定もできない。それで今回は、水道料金、下水道料金の基本料金だけもらって、超過した分は今回減免する。そして上下水道やるというのは、

水道と下水道の料金は全て連動している。水道・下水道を使っている範囲の中では1800戸くらいある。水道を利用しているのは2232戸くらいだという想定をし水道と下水道の両方をやる。そうしないと検針に行つた人が、両方それこそ検査の検針結果を調べた数字に出してくるものだから、それをやりたい。今回は大変迷惑かけたということで、いち早く水道料金、下水道料金の減免に踏み切ったということで、ご理解をさせていただきたいと思う。

辻 結構被害が出ている。対応できなく水を買って求めて歩いたという人も聞いているので、検討ではなくて実施していただきたいと思う。体を感じる微細な振動も年々多くなってきた。埋設されている管の漏水は、いつでも起こるかわか

らない。幸い今回1か所で、役場の担当で対応ができたが、数箇所にも渡って漏水が発生する可能性も出てくる。町内業者の配管業の事業所との協定を結んでいるのか。

町長 最初の質問の内容だが、14日から検針員が各家庭を回って最終的な検針の使用数量とかがわかってくるが、それは待たずとも3月分の検針の数字を見ないで基本料金だけいただき、超過した分は、一般家庭と事業所で異論がたくさんあるが、それは水の使い方がいいので、それをいいたい。言ってもためなので、超過した分について減免する。下水道もそうだよということのお知らせの紙を持って、検針員が水道・下水道の利用者に一戸一戸歩いて説明、細かな説明はできないが、チラシを配り、この減免についてはきちんと対応す

る。令和4年5年は、だいたい水道料金で4〜500万円、下水道料金で200万円超えるだろう。大体600万円から700万円くらいの補償金額になるのではないかと考えている。それは最終的には、ここで今確定の数字は出せないが、そういう結果になるだろうと想定しながら、この減免事業は進めたい。

災害協定だが、協同組合長万部町建設協会とも大きな災害時の応援もらうための連携協定は結んでいる。日本水道協会などと連携して、地震のようないきな災害が発生したときには、即お願いをするという体制になる。今回の場合は水道課の職員で対応できた。それはひとつ理解していただければありがたいと思う。